



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



小学生を指導する岐阜署職員

小学校の森林教室で 水源かん養・国土保全機能を体験

(P7に関連記事)

<p>主な項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 富山・長野・岐阜・愛知4県と各地で植樹祭を開催 P 2～3 ○ 森林教室、各種研修会を開催 P 7～8 ○ 新シリーズ 「現場最前線」 P 10
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

富山・長野・岐阜・愛知四県と各地で植樹祭を開催

**「みんなで豊かな里山づくり」
第三十八回岐阜県みどりの祭り**

【名古屋事務所】五月三日、第三十八回岐阜県みどりの祭りが「みんなで豊かな里山づくり」をテーマに、大垣市上石津町の緑の村公園において、関係者約三千人が参加して開催されました。

参加者は、千二百本の広葉樹の植栽による里山づくりを行いました。代表者による記念植樹では、小林名古屋事務所長もみどりの少年団の子供たちと一緒に植樹を行いました。記念植樹後の式典は、みどりの少年団による森林・里山・緑の誓いで式が始まり、主催者の古田岐阜県知事らの挨拶のあと、緑化功労者等の表彰があり、各関係団体の代表者や個人に表彰状が送られました。



みどりの少年団と植樹

れ、最後にみどりの少年団による「大会宣言」、その後、参加者全員による岐阜県民の歌を大合唱し式典を締めくくりました。

「守りたい 未来の緑は

僕らの未来」愛知県植樹祭

【名古屋事務所】五月十七日、愛知県植樹祭が「守りたい 未来の緑は 僕らの未来」をテーマに、大口町の大口中学校において、関係者約千六百人が参加して開催されました。

午後二時から、記念植樹が行われ、サツキツツジやコクチナシを始め五種類七百十六本の若木を植え、小林名古屋事務所長も子どもたちと一緒にスコップを持ちベニカエデを植えました。植樹後の式典では、大口町副町長の開会のことばで式が始まり、主催者の神田愛知県知事らの挨拶のあと、緑化コンクール入賞校や功労者らの表彰があり、各関係団体の代表者に表彰状が送られました。

次いで、大口町みどりの少年団の代表が「私たちは自然を愛し、緑の中でその尊さを学びます」と、「みどりの誓い」を提唱するとともに、緑の大使 マリクリスティーナさんによる「みどりの宣言」が行われ閉会となりました。

なお、会場になった、大口中学校は今年、二校を統合し新築されましたが、新校舎の内部は木材をふんだんに使用して



記念植樹する小林名古屋事務所長他

おり、温もりを感じるつくりとなりました。

豊かな自然を未来に

「とやま森の祭典

【富山署】「育てよう 小さな種から大きな森へ」をテーマに、第九回とやま森の祭典が五月二十三日、砺波市の夢の平スキー場で開催され、花と緑の少年団、農林漁業関係者、飛騨地域林業関係者など二千人が参加しました。

式典では小林名古屋事務所長が林野庁長官代理としての祝辞の中で、「美しい森林づくり推進国民運動」への理解と参加を呼びかけました。

式典終了後、小林事務所長は、緑の少年団とともに市の花木であるエドヒガンザクラを記念植樹しましたが、他の参加者は、ヤマモミジやヤマツツジなど六百本の植樹や森の除伐作業に汗を流し、森林整備の必要性を再認識していました。

富山署のブースでは、「美しい森林づく



森林クラフト作りをする参加者

くり推進国民運動」の取組や森林の働きをPRするパネル展示等を行いました。

午後からの「森とのふれあいフェスティバル」では、当署ブースでの森林クラフト教室には緑の少年団や一般の方々が大勢参加し、花のしおりや森のクラフト作りを熱心に行い、独創性のある作品を次々と作っていました。また、一般参加者からも「久しぶりに童心にかえりました」とのお礼の言葉が聞かれました。

「ふなやの森へつる民の集い」

長野県植樹祭開催

【指導普及課】五月三十一日、長野県、中部森林管理局、長野市などが主催する、平成二十年度ふるさとの森づくり県民の集い・第五十九回長野県植樹祭が「つなげよう 森の豊かさ 美しさ」をテーマに長野市飯綱高原において開催され、みどりの少年団、林業関係者、一般



雨中での記念写真

参加者など約千五百人が参加しました。善光寺木遣りを皮切りに記念式典が行われ、村井県知事、鷲澤長野市長から挨拶があり、続いて平野局長から林野庁長官の祝辞が代読され、温室効果ガス削減目標達成に向けた間伐等の森林整備の重要性、また、昨年から官民一体となって展開している「美しい森林づくり推進国民運動」への更なる理解と協力を呼びかけました。

植樹会場は、針広混交林づくりを目指して、長野市有林内の約二畝の間伐跡地に設けられ、その中にヤマボウシやシナノキ、ヤマモミジなど計三千本を植樹しました。

作業中は、あいにくの雨に見舞われましたが、平野局長も鍬を片手に、地元の子供たちや参加者の皆さんと一緒に雨に濡れながら植樹作業に精を出しました。

最後に参加者の皆さんが記念標柱を囲んで記念撮影をして植樹作業を締めくくりました。

なお、今回の森林整備活動は、自家用車、年十九台分の二酸化炭素の吸収・固定に貢献すると試算されています。

大桑村・木曾森林管理署

南木曾支署合同育樹祭を開催

〔南木曾支署〕五月二十四日、木曾郡大桑村の「のぞきと森林公園」において大桑村・木曾森林管理署南木曾支署合同育樹祭を開催し、愛知県北名古屋市民をはじめ、村民ら約三〇〇名が公園内のツツジの生育を妨げる下草や雑木の除去に汗を流しました。

今回は、北名古屋市と大桑村の友好提携調印式も行われ、木曾川の流れを縁とした交流の絆を深めることを誓い合いました。

次いで、大桑小学校五・六年生の木製オ

カリナ演奏と、西春少年少女合唱団の合唱が行われ、育樹祭終了後は小学生を対象としたシイタケ植菌作業の林業体験も行われました。

参加者からは「森をすつきりさせるのは気持ちいい」等の感想も聞かれました。

また、五月三十日には南木曾町・木曾森林管理署南木曾支署合同育樹祭を木曾郡南木曾町北蘭国有林において開催し、南木曾小学校みどりの少年団をはじめ、愛知県長久手町長ほか約二〇〇名が、南木曾町の町木であるヒノキや町花であるミツバツツジほか七種類の苗木三七〇本の植樹に汗を流しました。

式典では、南木曾小学校みどりの少年団の代表二名より「海の生き物のための森作りをしたい」、「よく育つように一生懸命植えます」という宣言の発表後、植樹作業と森林教室が行われ、日程を終えました。

なお、両行事において「美しい森林づくり推進国民運動」のパネル展示やパンフレットの配布も行い、本取組のPRにも努めました。

北信州植樹祭開催される

〔北信署〕六月七日、下水内郡栄村、さかえ倶楽部スキー場周辺において北信州植樹祭が開催されました。

この植樹祭は健全な森林づくりを目指す



みどりの少年団と一緒に植樹

し、森林・林業の大切さ、森林整備の必要性を普及啓発するもので、北信地区六市町村が持ち回りで開催しています。主催は県地方事務所をはじめ森林管理署、当該市町村、森林組合等林業関係八団体で、当署も唐鍬の提供や準備・実行スタッフとして協力しています。

梅雨の合間の好天に恵まれ、みどりの少年団、一般参加者、林業関係者など約三五〇名の参加者は四百本のヤマザクラやツツジの植樹に汗を流しました。

昼食は栄村の好意で、この地方特産のネマガリダケのタケノコ汁に舌鼓を打ち、栄太鼓の演奏を楽しみ、有意義な一日を終了しました。

平成二十年度第一回署長等会議

〔総務課〕五月十五日～十六日、森林管理局において署長等会議が開催され、局長等会議（四月二十四日～二十五日開催）関連の指示及び本年度の業務運営等



みどりの少年団と一緒に植樹



署長会議の様子

に關する打合せが行われました。

全体会議では、平野局長から

① 国有林改革、② 綱紀の肅正、③ 美しい森林づくり推進国民運動の展開、④ 国民に向けた分かりやすい PR 等について訓示がありました。

引き続き、小林次長から

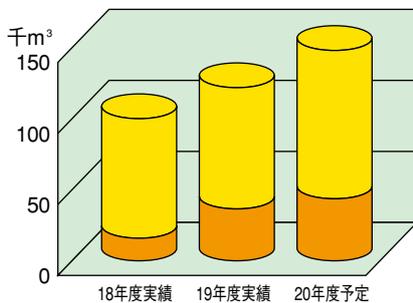
① 契約の適性化と事業の計画的発注、② 生物多様性条約第十回締約国会議等についての訓示後、各部長等からの説示があり、各署長等との活発な意見交換が行われ、会議を終了しました。

間伐の推進、治山事業、次期計画検討会等を実施

販売の推進について

「販売課」 「国有林材の安定供給システ

素材販売量とシステム販売量



ム」(以下「システム販売」とは、間伐などの伐採系の森林整備を通じて生産された並材や低質材を安定的に供給することにより、需要や販路の拡大を図るとともに中核的な木材産業の担い手の育成に資することを目的として実施しているものです。販売相手方と局との間で協定を締結し、それに基づいて計画的な販売を進めています。

また、相手方の選定については、新たな需要の開拓や流通・加工の合理化などの企画提案を募り、その内容を審査した上で決定する企画競争方式により行っています。

地球温暖化防止対策として積極的に間伐を推進していることや、合板や集成材など新たな国産材需要の拡大などに伴い、中部局の最近のシステム販売の状況は、次のグラフのとおり、逐次拡大しています。

平成二十年度についても、七署等について九件の公募を行い、延べ十六件の企画提案をいただきました。局で審査した上で相手方の選定を行い、協定の締結を行いました。

システム販売は、国有林材の販路拡大や素材生産・販売にかかるコスト・労力の軽減に資するだけでなく、合板・集成材等新たな国産材需要の拡大、木材産業の振興に係る民有林施策との連携による流通・加工の構造改革などにも貢献しており、今後ともその拡充に努めていく考えです。

次期計画樹立に向けた

検討会を開催

「飛騨署」五月二十一日から二日間、宮庄川森林計画区の第四次地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の樹立に向けた現地検討会議を局計画課職員四名の指導のもと、胡桃島国有林外で実施しました。

当署は、二十森林事務所で約十一万六千畝の森林を管理しており、森林吸収源対策として平成二十年度収穫量が約十二万立方メートルと倍増するなど、取り巻く環境の変化について共通認識を持ち、効率的に次期計画の予備編成作業に向かう必要があることを踏まえ、計画課と打合せ中、今回の検討会の開催となりました。

一日目は、当署会議室で署長意見書提出書類についてのアドバイス、二日目は

カラマツ林の列状間伐地における今後の伐採及び針広混交林誘導に向けた検討の外、ピットローツヒ法による効率的な林分調査の実技などを実施しました。

また、森林官をはじめとした関係職員は若手からベテランまで幅広く、予備編成に係る知識に温度差があることを踏まえ、検討会に先立ち、森林官、現場係員などを対象とした計画制度の概念について飯村次長を講師にOJTを実施し、現地検討会がより効果的なものになるよう取組ました。

当署では、第四次予備編成を二十年度業務の大きな柱と位置づけて取組むこととしており、参加した森林官からは「初めての編成で不安だったが十分理解できて良かった」などの意見が出されました。



林分調査の実習中

間伐の推進に向け地域と連携 「美しい森林づくり in 飛騨荘川」を開催

【飛騨署】六月七日、高山市荘川支所文化ホール及び山中山国有林において、高山市荘川支所、荘川地区連合町内会、飛騨高山森林組合の共催により、当署が実施している低コスト・高効率間伐作業の現地見学会を開催し、荘川町民をはじめ飛騨高山高校環境科学科の生徒など百二十名の参加がありました。

これは、荘川市内での当署の取組について地域の方々から関心が高まり、連合町内会や支所と話し合う中で、住民全員に呼びかけようということになり、内容も単に見学だけでなく、森林組合が取組んでいる提案型施業の説明も行うなど、林業の低迷で薄れた山への関心を高めることを目的に開催したものです。

文化ホールでは、川本尾神森林官と大西森林ふれあい係長が技術交流発表会で発表した飛騨署の取組について発表しました。また、飛騨高山森林組合は「あなたの山の間伐材テク作戦」と題して間伐実施を呼びかけ、地元荘川の巨樹を守る会からは「ふるさとの宝物！ 巨樹・巨木を守ろう」と題して発表を行いました。

また、山中山国有林では高性能林業機械を初めて見る人も多いことから、飯村荘川森林官がハーベスタの機能を紹介し



参加者にハーベスタの機能を説明

た後、林内での伐倒造材作業やフォワーダによる運材作業を見学してもらいました。

参加者からは「初めて高性能機械を見たが感動した」、「国有林と民有林の連携で山主の理解を期待。将来この仕事に就きたい」など、低コスト作業に取り組んでいる林業を目的のあたりにして、森林組合や国有林への期待の声が聞かれました。

今回の取組は、森林官の提案を受け実際に至ったものですが、岐阜県飛騨農林事務所をはじめ市町村・森林組合から他の地域でも取り組もうといった気運が更に高まるなど、美しい森林づくりに向け「飛騨でもできた」が具体的に動きははじめました。

治山課職員による治山事業の 調査・設計

【東濃署】六月十日、職員の治山事業の調査・設計及び測量機器の技術習得を目的として、阿木恵那国有林において溪間工と山腹工の現地測量を行いました。当日は治山課職員七名が参加し、二班に分かれて測量、調査を行い、工種や配置等について検討しながら作業を進めました。

また、測量、設計の基礎知識の習得や各種計算書等の作成も行っており、測量後は成果を基に各自が設計し、全員で評価することとしています。この調査設計の成果品は設計審査等を経て、当年度以降の治山工事で施工する予定です。



光波測距儀を使用している縦断測量

地元市町村、ボランティアとの連携

民有林との連携を深める

「飛騨署」森林吸収源対策の推進など、 県、市町村と打合せ会開催

【飛騨署】森林吸収源対策の推進など、民有林と国有林の連携がますます重要となつていくことを踏まえ、去る五月十三日に当署会議室において県、市町村との合同打合せ会を開催しました。

この打合せは、それぞれの事業計画や主な取組事項等の説明・情報交換の場としたものですが、県農林事務所から林業課長ほか三名、高山市から林務課長ほか二名、飛騨市から農林課長ほか一名、白川村から産業課長ほか一名、そして当署からは、署長ほか十名が出席しました。

県や市町村からは県の森林づくり基本条例に基づく森林づくりプロジェクトなど低コスト作業の取組のほか、特にカシノナガキタイムシ被害対策についても民有林、国有林連携した対応等について話



関係者が一堂に会して情報交換

が出されました。

出席者からは「飛騨地域の森林・林業の発展には、民有林と国有林が連携して取り組まなくてはならない課題が多い。課題を決めながら今後も打合せ会を持つことはいいことだ」といった意見が出され、今後も継続して実施していくことになりました。

なお、当署からは「美しい森林づくり推進国民運動」の取組などについても紹介し、今後連携して対応することとなりました。

名古屋シテイフォレスト事業

— 金華山国有林の歩道整備 —

【岐阜署】五月十四日、「黄金の華咲く金華山の登山道を整備しよう」というテーマで第三回名古屋シテイフォレスト事業を実施しました。

金華山への入り込み者は増加傾向にあり、登山道の荒廃とイノシシによる歩道路肩の掘り返しが目立ってきたため、丸太を利用した階段と土壌安定柵を作設し



シノを使って階段づくり

ました。

今回は、金華山の登山コースのひとつである「東坂ハイキングコース」で隊員十七名の参加で五班に分けて作業を行いました。作業は唐グワで丸太を敷く場所をならし、丸太を支える鉄筋を金槌で打ち込み焼き番線（針金）で丸太と鉄筋をシノでくくりつけ、階段を丸太杭をカケヤで打ち込み、杭に沿って周辺の枯れ木を並べ土壌安定柵を作設しました。

隊員の中にはシノを初めて使う人もおり、最初はぎこちない手つきでの作業でしたが、だんだんと慣れてきてシノをうまく使いこなせるまでになりました。

また、作業に余裕がでてくると地形に合わせた階段を作設したり、工夫した作業を行いつつ、予定以上の箇所を整備することができ、充実した一日を過ごすことができました。

地域と協働で

【岐阜署】岐阜県下呂市小坂町の門坂国有林で、五月二十八日、除伐Ⅱ類の請負作業中にクマに左手などを咬まれる人身被害が起きました。

事故の翌日には、国有林入口ゲートに「クマ出没、入山禁止」の看板等を三箇所設置するとともに、今後、地域住民や魚釣り等の入山者がクマに襲われることが危惧されるため、「クマ出没、注意」の立て看板を作成し、五月三十日に門坂



看板を設置する職員と関係者

区長、下呂市役所小坂振興事務所職員三名及び当署職員三名の七名で門坂区内の民地に四箇所、国有林入口に一箇所を設置しました。

今後も、下呂市や地域住民からの情報収集及び共有に努め、地元地域と協働して、再び悲惨な事故が発生しないよう対策を進めることとしています。

夜叉ヶ池ボランティアパトロール

岐阜県運営協議会と

夜叉ヶ池山開き

【岐阜署】岐阜県側の夜叉ヶ池一帯の豊かな自然環境を保護することを目的に昨年設立された「夜叉ヶ池ボランティアパトロール岐阜県運営協議会」の平成二十年度総会が五月二十日、岐阜県揖斐郡斐川町役場において開催されました。

総会には(株)日本山岳会岐阜支部外四ボランティア、岐阜県、揖斐川町など二十二名が出席しました。

意見交換での要望、問題点では案内看板の整備、登山者のペット同伴問題等、

種々の意見が出される中、当署としては六月一日の夜叉ヶ池の山開きに合わせて行う歩道沿いの裸地化した林地への植生誘導マットの敷設をボランティア団体に要請しました。

夜叉ヶ池山開き

六月一日、夜叉ヶ池の山開き、安全祈願祭が揖斐川町板内観光協会の主催で開催され、岐阜森林管理署からは五名が参加しました。

関係者約五〇名は、安全祈願祭終了後、夜叉ヶ池を目指し、新緑のブナ林の中を約一時間四〇分かけて山頂を目指しました。

山頂の湖畔には両県からの約二〇〇名の登山者で賑わい、国内希少野生動物植物に指定されている「ヤシヤゲンゴロウ」を発見した歓声が聞かれました。

また、「夜叉ヶ池ボランティアパトロール岐阜県運営協議会」のメンバーは、登山道沿いの裸地化した箇所、現地周辺の種子により緑化する植生誘導マット十五枚を敷設しました。



植生マットを敷設する参加者

森林教室、各種研修会を開催

上原小学校森林教室

〔岐阜署〕 下呂市立上原小学校の依頼を受け、五月十九日に今年度最初の森林教室を行いました。

なお、上原小学校は林業教育に熱心に取り組んでおり昭和五十六年から五・六年生をメンバーとした「みどりの少年団」を中心に、毎年 植樹、枝打ち、間伐などの活動を行っています。

森林教室は、上原小五・六年生二十四名、先生三名を対象として、森林の働きなどのテーマで行っていましたが、地球温暖化については職員手作りのパネルシアターを用い、森林の二酸化炭素吸収の仕組みなどを説明しました。また、水源かん養、国土保全機能については実験器具を使って分かり易く説明しました。

最後に飛ぶ種として有名なアルソミトラマクロカルパの模型を作り、実際に飛ばす体験も行いました。



水の流れは違うかな

子供たちは、水源かん養機能のシミュレーション実験に特に関心を示し、森林のある山とハゲ山との差に驚き「これから森林を大切にしていきたい」等の感想が出るなど、森林の大切さを十分に伝えることができました。

裏谷原生林自然観察案内はじまる

〔愛知所〕 当所は、森林環境教育の一環として、例年 NPO 団体等と連携して森林教室を始めとするイベントに取り組んでいるところです。

今年度も五月二十二日から段戸国有林裏谷原生林の自然観察等の森林教室に、NPO 法人「穂の国森づくりの会」等と協力し、九月中旬まで豊川市内の小学校二十四校、約一、七〇〇名の児童を案内する予定です。

今年度は、さらに国有林野の教育的利用を推進するため、四月十八日に豊川市内の小学校教職員を対象とする「事前説明会」を、また四月二十四日には「森林環境教育研修会」を実施し、児童のみならず、担当する先生方にも理解を深めていただきました。



森林環境教育研修の様子

今後、様々な行事を通して、地域と連携しながら森林環境教育の推進に取り組んでいきたいと考えています。

小学生に森林教室を開催

〔東濃署〕 五月の中旬から下旬にかけて、加子母裏木曾国有林において、地元の小・学五年生を対象とした森林教室を実施しました。

この取組は、林業が盛んな地元付知町の子供達に身近な森林を歩いてもらい、実際に自然に触れて自然や森林に興味を持ってもらうことを目的として開催しているものです。

生徒達はパネルを見ながら森林の機能や役割等について勉強した後、各班に分かれて遊歩道を散策。樹木や植物、間伐材を有効利用した治山工事箇所を見学しました。中でも胸高直径一・七m、樹高約三十六mの大サワラには、熊が登った跡が残されており、生徒達はそのリアルな熊の爪痕に驚きの声を上げていました。また、遊歩道の終点には渡合三滝と呼ばれる三つの滝があり、終点まで元気に歩いた生徒達は「水がとてもきれいでビックリした」、「自然や森林を大切にしたい」と感想を話していました。

また、当署では毎年六月の「土砂災害防止月間」に併せ、中津川市内の小学四年生を対象に、国交省多治見砂防国道事務所中津川出張所と協力して「あおぞら教室」を開催しており、今年度は四校を対象に実施しました。



大サワラを囲んで大きさを実感

午前中は、国交省による砂防教室と当署治山課職員による治山事業の教室が行われ、生徒達はパネルを見ながら土砂災害の恐ろしさや治山事業の必要性について学びました。

砂防施設の遊歩道を利用したクイズラリーでは、砂防や治山のクイズに全問正解する生徒が続出しました。

午後からは、地元森林官が森林の機能や働きについてパネルや実験道具を使用した森林教室を行いました。その中で生徒達は森林の機能だけでなく、自分たちの生活には多くの木が使われていることを知り「木は使うだけでなく、育てることも大切だね」などの感想を話していました。

「森林の働きや大切さを学ぶ」 瀬戸市の十三校が体験学習

「名古屋事務所」名古屋事務所では、五月から六月にかけて、定光寺自然休養林内において瀬戸市内の小学校十三校の依頼を受け、森林教室を行いました。

森林環境教育の一環として森林教室の要請が増え、今年度五・六月は八三〇名を超える小学五年生が森林教室に参加しました。

実施内容は学校の要望により異なりますが、

一 尾張森林官による自作のイラストや模型等を使った「森林の働きや大切さ」の講話

二 森林の働きや大切さをテーマとした「森林（やま）からの贈り物」の紙芝居



森林教室実施の様子

三 森林に入り、スポンジのような土を踏みしめ、木に触れながら樹木や森林の機能について学ぶ森林散策

四 ヒノキの間伐材を利用した木工クラフトや丸太切り体験

五 自然の中で遊びながら森林を学ぶ「木の葉のカルタ取り」や「動物交差点」などのネイチャーゲーム

六 世界一大きな種・種の運ばれ方等植物の増え方を学ぶ種飛ばし

などの内容で、児童が興味深く楽しみながら学んでもらえるプログラムとしました。

木工クラフトの作品の中には、「森林を大切にしよう!」、「地球温暖化防止!」等の児童からのメッセージや、森林教室の参加後には児童から「森林の大切さが分かった」、「自然を守っていきたい」などの感想が寄せられるなど、森林とふれあうことにより、自然や森林に対する関心や興味を持ってもらうことができました。

「地元の森林を案内したい」 上矢作町で案内人育成講座を開催

【東濃署】六月八日、晴天に恵まれた恵那市上矢作町において「アライダシ自然観察教育案内人育成講座」が開催され十六名の地元住民と共に当署職員二名が参加しました。

「アライダシ自然観察教育案内人」は当署が管轄する上矢作町内の上村恵那国国有林



樹木の特徴を説明する川合氏と聞き入る参加者

に所在しており、約十鈴の区域の中にモミヤブナ、ミズナラなどの天然木が見事な自然林を形成しており、春から秋にかけて森林散策スポットとして多くの森林愛好者に利用されています。

恵那市では今年「上矢作町まちづくり委員会」が中心となって、地元の森林を守っていくため、より多くの人を知ってもらおうと、住民を対象にした案内人育成講座を開催しています。

当日は、講師として森林インストラクターの川合壽之氏を迎え、講義及び現地での研修が行われました。

現地では「森林の音を消さないためスピーカーはなるべく使用しない」といった案内時の注意点や様々な樹木・植物の特徴や見分け方について分かりやすく説明され、参加者は写真を撮ったり匂いをかいだりしながら熱心に聞き入っていました。

この講座は三回を一セットとしており、今回が二回目、三回目は九月に予定がされています。

各地からのたより

小さな工夫で大きな効果 交通安全対策

【南信署】管内が広大な当署では、高速道路を利用する機会も多く、トンネルでライトが点灯しない、渋滞でハザードランプやブレーキランプが点灯しないなどの故障は事故につながりかねません。一人でもライト類の点検を効率的に行うことができるように庁舎出入口付近にミラーを設置しました。小さな工夫の安全対策ですが、大きな効果を上げていきます。



緑十字に職員実行で設置

花交流フェアに参加

「愛知所」花と緑の多い美しい町づくりを目指し、豊橋市が主催する「花交流フェア2008」が五月三日から五日まで豊橋公園で開催され、市民一万七千名が来場しました。

当所は、三日に行われた竹細工コーナーに参加し、パネル展示や竹とんぼをかざぐるまづくりを指導しました。

当日は、朝までの雨も止んで快晴となり、汗ばむ陽気の中、親子連れなど約五百名の市民が当所のコーナーを訪れ、職員指導の下、子供と一緒にかざぐるまや竹とんぼ作りに熱中していました。

完成し空に飛んでいくと、大人も子供も歓声をあげようこんでいました。



慣れない手つきでの竹とんぼ作り

第五十九回 下呂市みどりの祭り

「岐阜署」五月十八日、「ありがとう

未来へつなげ「森のめぐみ」をテーマに平成十八年五月に開催された第五十七回全国植樹祭会場である下呂市萩原町四美の「皇樹の杜(こうじゆのもり)」において、「下呂市みどりの祭り」が下呂市内の林業関係者、一般市民等多数集まる中、開催されました。

当署も森林管理署コーナーとして「美しい森林作り」、「馬瀬川溪流魚付き保全林」のパネルレット配布、森林の働きを説明するパネル展示、森のクラフト教室を行いました。

森のクラフト教室では大勢の親子連れが訪れ木の枝、木の実、輪切り材等を利用して様々な工作を行いました。特に子供たちの発想はすばらしく、つるの曲がりを利用してカタツムリを作製するなど、大人には思いつけないような工夫をして作製していました。

また、記念式典の中では下呂市上原の上原小学校みどりの少年団による体験発表が行われ、その内容の中には、昨年当署が行った森林教室の内容が子供たちによって紹介され、当署の森林教室が学校の中に確実に浸透していることが分かりました。



つるのカタツムリを作ったよ

「美しい森づくり」をPR 平成二十年度森の市が開催

「指導普及課」五月十日・十一日の両日、東京都日比谷公園において、平成二十年度森林の市(主催：林野庁、国土緑化推進機構等)が開催されました。

全国各地から、七十五の団体が出店し、木工品や地域の特産品の販売、環境保全や森林づくりへの取組等のパネル展示等が行われました。

中部森林管理局では、「美しい森林づくり」に向けた取組として、①公益的機能の發揮に向けた取組、②木材の利用拡大に向けた取組、③国民の森林としての取組、④森林環境の保全・管理の取組、⑤保護林、緑の回廊、レクゾンの紹介等のパネル展示及びリーフレットの配布のほか、木製ペンダント、クロモジの鉛筆づくりを行いました。

二日間とも天候が悪く、会場に訪れる人は昨年より若干少なめでしたが、中部局のブースでは、リョウブやブナの木の輪切りに好きなキャラクターの図柄を描き、色を付けるペンダントづくりや、クロモジをナイフで削り鉛筆の芯を差し込んだオリジナルの鉛筆づくりに子供達が集まり、友達や親とともに一生懸命取り組んでいました。

この他、中部局管内では、長野県、岐阜県、愛知県から十二団体が出店し、木製品、山菜などの特産品等の展示即売や



真剣にペンダントづくりに取り組んで

木工教室、ツリークライミング体験等が行われていました。

また、上伊那農業高校と木曾山林高校も参加し、環境調査研究のパネル発表や生徒が作製した木工品、きのこ、花、炭等の販売など元氣よく取り組んでいました。

東海のみニ尾瀬「葦毛湿原」で

希少植物の観察と
森林セラピーを楽しもう

「名古屋事務所」五月三十一日に平成二十年度「第一回森林ふれあい講座」を東海のみニ尾瀬と呼ばれる豊橋市の葦毛湿原で開催し、抽選による二十名が植物観察と同湿原から豊橋国営林内を通り普門寺までの約四キロメートルのトレッキングを楽しみました。

湿原の観察では、講師に指導普及課の元島技術開発主任官から、ミカワバイケイソウやオオバウマノスズクサなど湿原特有の植物の説明を受け、受講者は真剣



説明に聞き入る参加者

な表情で聞き入っていました。

また、その後は湿原から普門寺までの豊橋国有林を含む四キロメートルのトレッキングを楽しみました。途中見晴らしの良い尾根からは豊橋の市街地や浜名湖が一望でき、その景色の良さに参加者からは感嘆の声が聞かれました。

当初は、キツイコースで初心者や年配の方には棄権する方も出るのではと心配しましたが、予定時間より早く全員が普門寺まで完歩しました。

参加者からは、「疲れたけど、参加した甲斐があった」、「貴重な植物を見られて良かった」、「また違う季節にきたい」などの感想をいただきました。

管内囲碁大会を開催

「OB」第四十回管内囲碁大会が五月十七日に開催されました。大会は現職員一名、OB 二十二名が参加し、盤上に熱戦を繰り広げました。

成績は次のとおりです。

Aブロック

優勝 美斉津 桂 五段 (OB)

準優勝 鈴岡 利男 四段 (〃)

敢闘賞 清水 輝芳 四段 (〃)

Bブロック

優勝 松本 米美 二段 (〃)

準優勝 黒沢 嘉武 二段 (〃)

敢闘賞 上之内義美 二段 (〃)



第40回中部森林管理局囲碁大会

人のうごき

中部森林管理局人事

五月一日付

▽飛騨森林管理署上ヶ洞森林事務所 上席森林官 (飛騨署甲森林事務所 上席森林官) 稲川 年秋

▽飛騨森林管理署甲森林事務所 上席森林官 (飛騨署双六森林事務所 上席森林官) 武田 英雄

五月十六日

▽富山森林管理署神通森林事務所 (富山署業務課管理係) 城倉 恵介 六月一日付

▽飛騨森林管理署業務第一課付 (飛騨署中洞森林事務所 森林官) 遠山 恵一
▽飛騨森林管理署中洞森林事務所 森林官 兼任 (飛騨署上ヶ洞森林事務所 上席森林官) 稲川 年秋

シリーズ 現場最前線

今月号より、現場の最前線で活躍している皆さんを紹介する、「シリーズ」現場最前線」を連載します。今回は、木曾署です。

「いつも明るく元氣よく」

「木曾森林管理署

「木曾森林事務所 藪原造林班」

我が造林班の現場は、木曾谷北部に位置する小木曾・塩沢国有林で面積約七、五〇〇ヘクタール、鉢盛山二、四四六メートルを源頭とする総延長二二七キロメートルの木曾川源流を擁しているのが特徴です。

班員六名は、熊よけの鈴がいらないくらい大きな声で、元気がよい班です。

朝のミーティングは、毎日しっかり行い、同僚の顔色や話の口調から、その日の体調や職場の雰囲気判断し、作業予

定や安全管理に活かしています。そのため、安心感や心の余裕が自然に出ており、森林官を中心に業務に励んでいます。

そして、源流の国有林として、誇りをもって山造りに励んでおり、最近では、名古屋圏のテレビ局からの取材を受けるなど、木曾川上下流交流が盛んな木祖村の宣伝に貢献しています。これからも、湧き出る水のように、活力のある、健康で明るい職場を維持していきたいと考えています。



歩道修理作業中

◆お知らせ

平成十九年度 中部森林技術交流発表会の優秀賞受賞課題を三回に分けて掲載する予定でしたが、今月号は紙面の関係から、来月号に掲載することとします。



実験林・試験地等紹介



〔東信森林管理署・指導普及課〕本試験

は、カラマツ人工林の育林技術体系確立の一環として本数密度の強度別効果を判定し間伐の時期、方法を検討するため、昭和四十三年から四十五年度に旧長野局の各署において設定し調査を行ってきたものである。東信署管内では一箇所を設定しています。

○試験地の概要

- 屋敷入奥国有林 九八林班な小班
- 設定年度 昭和四十三年度
- 植付け年度 昭和三十三年
- 設定時林齢 一〇年生
- 面積 一・一五ヘクタール
- 標高 一、〇八〇メートル
- 地位 九

○試験区の設定と調査方法

試験は本数密度調節回数一〜三回の実施と比較することとし、強度区、中度区、弱度区、列状1/2区、及び本数調節を行わない対照区を設けました。なお、列状1/2区は強度区と同程度の密度です。間伐は平成元年六月に実施しています。標準区は、各試験区の密度相違による影響を考慮しておおむね中央部に設

けました。一箇所の標準区は〇・〇五〇・〇九センチとしています。

標準区の立木について胸高直径一メートル単位、樹高は十センチ単位に測定し五年毎に調査実施することとしました。

◎試験結果

(S43年とH16年の比較表参照)

△胸高直径

胸高直径は各試験区ともに順調に推移していますが、これを本数密度と対比すると直径生長は現存密度との相関関係が大きいと判断されます。生長率は強度区と対照区で高くなっていますが、強度区では強度間伐の効果が現われていること、対照区では設定時からの枯損低減が大きく直径生長に繋がったものと考えられます。

△樹高

特に各試験区とも大きな違いはありません。概ね本数密度、胸高直径に相関があると判断されます。生長率については本数密度との相関は明らかではないが直径生長との相関が認められます。

△蓄積と胸高断面積

最も蓄積の高い弱度区と低い列状区では八十六m³/haの差がありますが、各試験区の本数密度が近いことから本数調節の効果は少なくなっていると判断されます。

○まとめ

設定から三十七年を経過した四十六年生の林分であり、強度区においては

試験区	直径 (cm)		樹高 (m)		本数 (本/ha)		蓄積 (m ³ /ha)	胸高断面積 (m ² /ha)	
	H16現在	推移	H16現在	推移	H16現在	低減率	H16現在	H16現在	推移
強度区	25.2	376%	23.3	333%	488	63%	307	25.6	512%
中度区	23.6	323%	24.1	349%	563	67%	322	25.8	397%
弱度区	21.5	331%	22.6	323%	858	64%	378	32.2	403%
列状1/2区	22.0	349%	21.4	306%	540	56%	292	25.8	586%
対照区	24.0	387%	23.4	339%	625	77%	311	25.6	341%

各試験区におけるS43年からH16年の推移



列状1/2区

三十一年生時の間伐による密度調節の効果が現われているものと判断されます。なお、対照区においては二十〜四十年生の頃の急な枯損低減により胸高直径等が強度区に近い数値を示したものと考えられます。他の試験区では胸高直径等に違いは認められていませんが、これは本数密度が近接してきているものからと考えられます。今後は、設定時の考え方に基づき間伐を実施し、五年毎の調査を継続していくこととしています。

○所在地 長野県南佐久郡佐久穂町
○報告書は「試験調査報告」平成十八年度 中部森林管理局 四十八頁



越美山地緑の回廊

能郷白山と温見峠

越美山地緑の回廊は、越美山地の国有林（延長六六^{キロメートル}、面積七二六〇^{ヘクタール}）に設置されている保護林を連結することにより、野生動植物の移動経路を確保し、より広範かつ効果的な森林生態系の保全を図っています。

その中の、能郷白山ブナ植物群落保護林は、面積六四一^{ヘクタール}、日本の原生的なブナ帯連続性において重要な林分となっています。

※越美という名前は、越前（福井県）と美濃（岐阜県）の頭文字です。

能郷白山は、岐阜県と福井県にまたがり、標高は一、六一七^{メートル}、太平洋と日本海の分水嶺となっています。山頂からは伊吹山・加賀白山・恵那山・北アルプス等の三六〇度の展望が広がります。

（加賀白山を開いた泰澄上人が、加賀白山の山頂から見渡したとき、この山（能郷白山）が目にとまり、白山権現の分祀

大河原国有林から能郷白山を望む



を思いつき、開山し祠を祀ったと伝えられています。）

温見峠は、福井県大野市と岐阜県本巣市根尾を結ぶ国道一五七号線の峠。（最高地点の標高は一、〇五〇^{メートル}）

能郷白山の鞍部にあり、峠の名前は旧西谷村にあった集落の名前に由来します。現在も大野市温見として名前は残るも廃村となっており、当時の建物は一切残っており、岐阜県側の根尾村大河原（現在の本巣市根尾大河原）は、冬期無人集落となっています。

歴史的には、鎌倉時代は、越前府中（福井県越前市）と鎌倉（神奈川県鎌倉市）とを結ぶ最短ルートとして重宝され、江戸時代は結城秀康が関所を設けて福井藩

への敵の侵入を監視しました。

岐阜県本巣市根尾大河原から黒津間が路肩決壊により現在通行止めとなっています。

登山ルートは、岐阜県本巣市能郷谷から登るルートと、国道一五七号の岐阜県と福井県境の温見峠から登るルートがあります。（かけがえのない自然、大切な森林をみんなで守り育てましょう。）

能郷白山へのアクセス

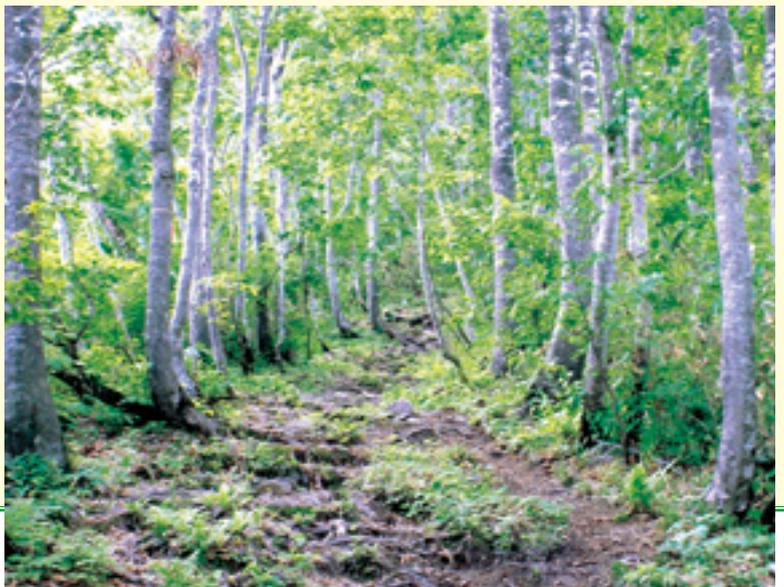
名神高速ICから本巣市樽見より能郷を経て四・八^{キロメートル}、約三時間三〇分。

温見峠からは二・四^{キロメートル}、約一時間三〇分。



白山権現分祀の祠

ブナの原生林



行事・会議等の予定

◎ 全国安全週間

7月1～7日

◎ 治山課長会議

7月2日 林野庁

◎ 国有林・民有林治山ヒアリング

7月8～9日 林野庁

◎ 名古屋シティ・フォレスト事業

7月15～30日

富山・木曽管内